〔杯と徳利の墓石〕

親川の墓地に杯と徳利の形をした墓石があります。これは酒をこよなく愛した佐藤丈助（じょうすけ）の墓です。子孫にあたる佐藤薫氏を訪ね、次のようなお話をうかがいました。

佐藤丈助保高は、石脇より親川に肝煎として移り住んだ初代幸右衛門より数えて五代目です。親川肝煎を拝命、士族格の扱いで、名字帯刀を許されていたそうです。佐藤家系図によると、資性文学を嗜み、酒を好み、一代裕福なる生活を為したとあります。

天保十一年（一八四〇年）八月二十三日死亡。徳利に杯をかぶせた墓石に、親交あった岩城公の重臣、東海林左右兵衛家老が、狂歌を刻み曰く、

杯を笠に　徳利を杖にして
心地よいよい　来る極楽

「よいよい」は「酔い酔い」に掛けた言葉ともいわれています。この墓石は、以前は国道の上に位置する所にありましたが、昭和三十八年ごろ国道工事のため、現在の所に改葬されたとのことです。墓石は風化が進み、狂歌が刻まれた跡はすでになく、側面に「天保十」と読めるだけです。戒名は修学院禅翁白道居士。肝煎時代の屋敷は、現在の藤田タバコ店の所にあり、おやじ屋敷と呼ばれていましたが、その後親川一三番地に移っています。



杯と徳利の墓